

# 経営比較分析表（令和3年度決算）

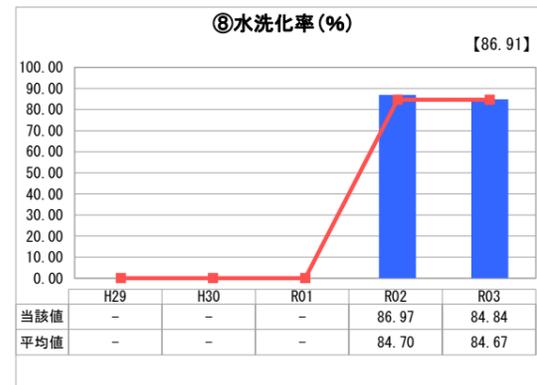
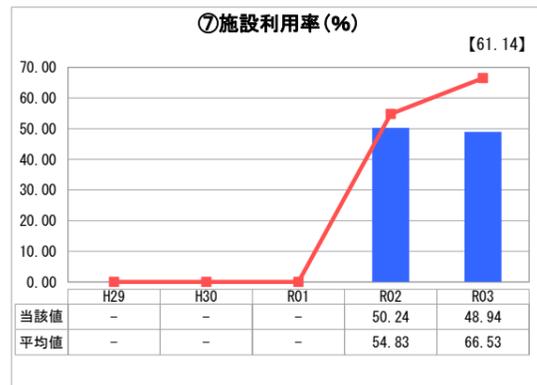
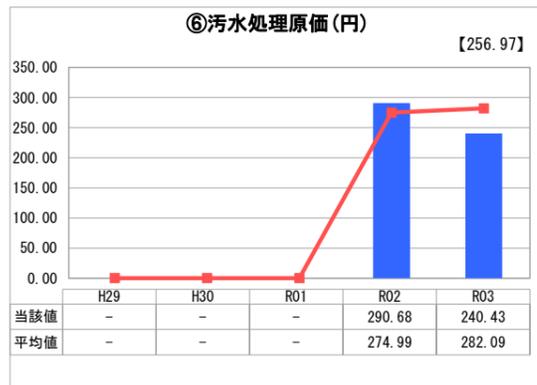
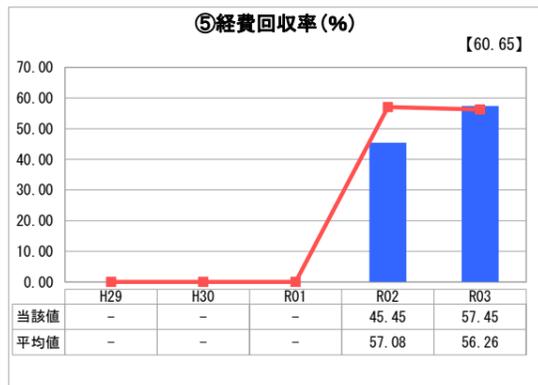
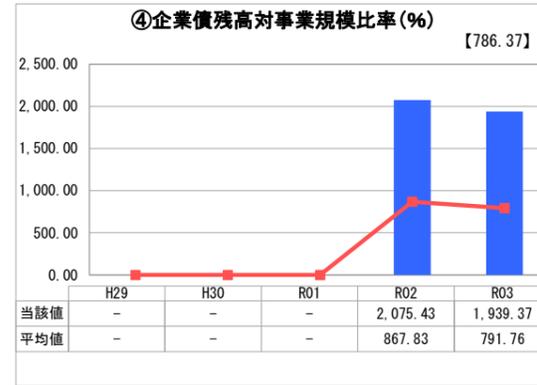
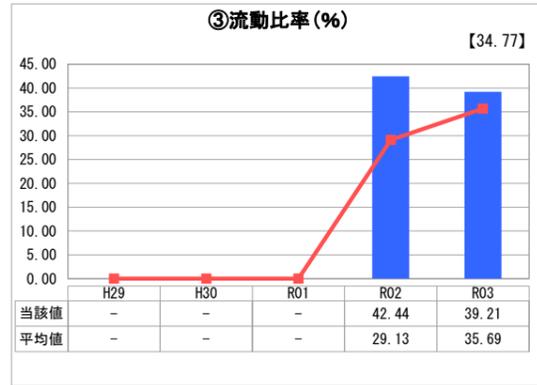
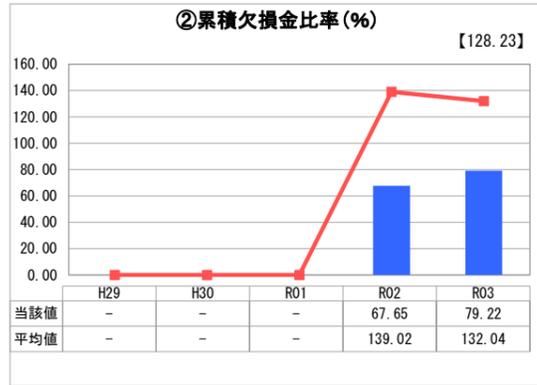
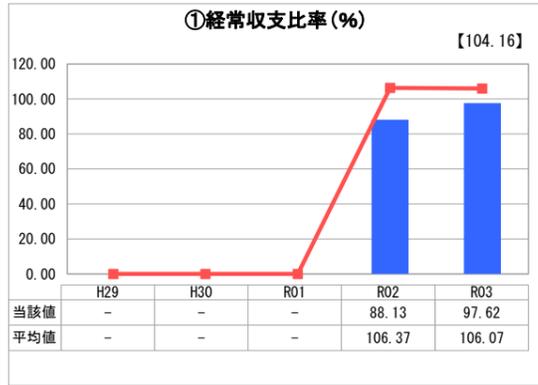
埼玉県 寄居町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	75.93	7.31	89.43	3,421

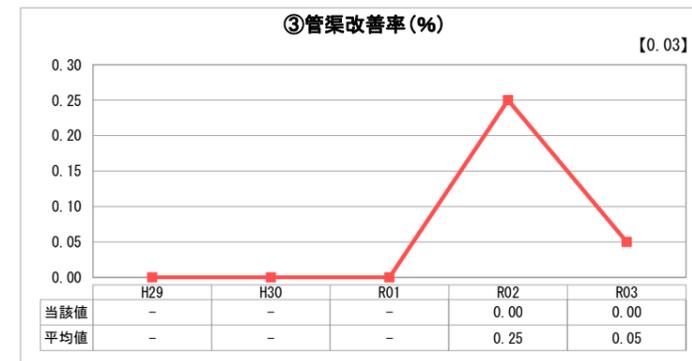
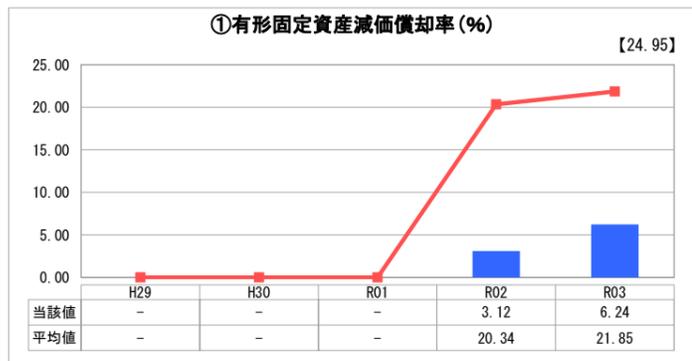
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
32,587	64.25	507.19
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
2,374	0.85	2,792.94

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和3年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

「①経常収支比率」  
令和3年度は使用料収入は減少しているものの、単年度事業が減少したことによる委託料の減少等により、前年度よりも数値が高い状況である。

「②累積欠損金」  
①の経常収支比率が100%を切っていることから、累積欠損金が発生している状況である。主な要因としては一般会計からの繰入金を損益の関係する収益的収入と建設改良費や企業債償還金等の支払い財源となる資本的収入に振分する際の配分によるものである。

「③流動比率」  
100%を下回り前年度よりも減少しているものの、本事業の整備自体は既に終了していることから新たな借り入れは行っていない状況である。今後は施設の更新に対し、施設整備の計画に基づいた適切な更新を行えるよう努めていく。

「④企業債残高対事業規模比率」  
類似団体平均よりも高水準であるが、整備自体は完了しているため新たな借り入れは行っていない。このことから、整備の完了以降は減少していくことが見込まれる。

「⑤経費回収率」  
令和3年度の数値は、単年度の事業費の減少に伴い前年度と比較しても減少しているため、使用料収入の確保と経費の削減の両面から、当該指標の改善に努めていく。

「⑥汚水処理原価」  
令和3年度の数値は、⑤経費回収率と同じく単年度の事業費の減少に伴い前年度と比較しても減少しているため、経費の削減等により、当該指標の改善に努めていく。

「⑦施設利用率」  
人口減少や節水機器等の普及により処理水量が減少傾向となっていることから、当該指標数値も減少している。今後は機械装置等のダウンサイジング等を検討し、処理人数に合った施設の選択を行う必要がある。

「⑧水洗化率」  
整備が完了しエリアが拡大しないうえ、人口減少により前年度よりも数値が低い。未接続者への接続勧奨等による水洗化人口確保に努めていく。

### 2. 老朽化の状況について

「①有形固定資産減価償却率」  
全国・類似団体と比較して数値が低いことから、耐用年数の近い資産が少ないことが考えられる。将来に備え、財源確保や施設の在り方の研究を継続して行い、今後の更新に備えていく必要がある。

「②管渠老朽化率・③管渠改善率」  
令和3年度末時点では、更新を迎える管渠がないため、数値としては両指標とも0%である。今後は施設整備計画に基づいた管路の点検・調査を適宜実施し、老朽管の更新を効率的に行う必要がある。

### 全体総括

令和3年度時点では、純損失が発生し、経費回収率が100%以下であることから、使用料で回収すべき経費を全て賄っていない状況である。このことから、接続勧奨等の使用料収入の確保、経費の見直しによる削減等、経営戦略に基づいた持続可能な経営を行えるよう努めていく必要がある。また、今後発生する管渠の更新についても、財政収支とのバランスを考慮し適正なタイミングでの実施ができるよう施設整備計画を活用するなど研究を継続していく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。